Company Name:

グローバルプロデュース

メタバースの利点を生かした「心に響く」イベントを演出

クライアントの“想い”を“カタチ”にする、最大効果のイベントを手がけ続けるグローバルプロデュース。同社が新たなイベント形態として近年力を入れているのが、メタバースだ。イベントにメタバースを導入するメリットやその背景について話を聞いた。

イベント形態の第4の柱 メタバースの可能性

2012年創業のグローバルプロデュースは、「イベントプロデュースを通じて世界中に幸せを届ける」をミッションに、入社式や周年記念式典、キックオフミーティングなど、企業向けを中心に、国内外問わず年間約280本のイベントをプロデュースするイベント会社だ。同社では、コロナ禍を機に、対面で実施するリアルイベントだけでなく、オンラインイベントやリアルとオンラインを組み合わせたハイブリッド型イベントなど、時代のニーズに応じて新しい手法を取り入れたイベントを展開してきた。同社が、リアル、オンライン、ハイブリッドに次ぐ、第4のイベントとして注目し、昨今力を入れているのが、メタバースだ。メタバースの特長について、代表取締役社長の光畑氏はこう話す。

「イベントの魅力のひとつは、参加者が自由に動き回ることで生まれる『偶発性』にあります。メタバースでは、参加者がアバターとして現実世界と同じように会場を動き回り、他者と会話することが可能です。そこで意外な人と出会って新たなコネクションが生まれるなど、オンラインイベントではしかけにくかった『偶然』が生まれやすくなっています。この自由度の高さは、メタバースの大きな利点です」

イベントのすべてをメタバースで構築するのではなく、こうした利点を生かしながら、メタバースを一部に組み込んでいるのが特徴だ。「受付やエントランス、展示スペースなどをメタバースでつくり、プレゼンテーションは、オンライン配信にするなど、適材適所でメリハリをつけた演出をしています」

感動体験を重視した「心に響く」演出に強み

イベントをプロデュースする際、同社が重視しているのが「心に響く」演出や工夫だという。

「社会は今、どんどん便利になっています。個人が手軽に膨大な情報にアクセスできますし、動画配信サービスなどで、ハイクオリティのコンテンツに日常的に触れることができる時代です。こうした世の中でイベントに求められるのは、体験することで得られる心の動きや感動、一体感、充実感といった、『エモーショナルさ』です。これは、リアルで開催するイベントも、オンラインもハイブリッドもメタバースもすべて同じ。どの形式で開催する場合も、心に響く演出にはこだわっています」

光畑真樹氏
グローバルプロデュース
代表取締役社長／チーフイベントプロデューサー

例えばオンラインイベントでは、登壇者と一緒に何度もリハーサルし、表情や言葉選びなど、「心に響く」話し方や伝え方を引き出す。カメラアングルやカメラワークなど、見せ方にも徹底的にこだわっている。

また、イベントを心に残るものにするためには、参加者が能動的にイベントに携わることが重要だという。「イベントには、必ずインタラクティブ性のあるしかけを用意します。ミッションを設けるのもそのひとつ。例えばメタバースで『5名と名刺交換してください』というお題を出すと、遊び心が生まれて、心に残るものになるのです。

ほかにも、イベントで紹介する商品やサービスについてその場で参加者から意見を募ることもあります。リアルイベントで、『意見がある方、挙手してください』と呼びかけても、ほとんど手は挙がらないでしょう。けれど、端末を介して回答できるメタバースやオンラインであれば、9割は回答があります。そのなかには、貴重な意見や今後の宝となるアイデアが眠っているかもしれません。このような、個人が意見を表明しやすい適度な距離感は、リアルイベントにはない魅力といえます」

PR

GLOBAL PRODUCE
EVENT SOLUTIONS THAT INSPIRE

Company Data:
株式会社グローバルプロデュース
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-15-5 Tel.03-5738-2117
https://www.global-produce.jp

2022年頃より、メタバースイベントの事例は徐々に増えている。大人向けのビジネスイベントを中心にプロデュースする同社では、現実世界との乖離を防ぐため、アバターも本人に似せた造形にし、実名参加を基本としている。

メタバース一択が正義ではない 臨機応変なアサインが大切

同社の強みは、これまであらゆる業界、クライアントとイベントをつくりあげてきた知見を生かし、目的に応じて、最大限に効果を発揮するイベントをプロデュースしていくことにある。開催方法についても同様で、リアルかオンラインか、ハイブリッドか、メタバースを組み合わせるのか、ケースに応じて、さまざまな選択肢を提案している。

「『メタバース』は、あくまでも、イベントの可能性を広げる手法のひとつ。決して『メタバース一択』に固執するつもりはありません。個人的に言えば、イベント開催において、『リアル』の感動に勝るものはないとも考えています。対面でのイベント開催は、弊社としても、今後も大切にしたい領域です。一方、これからの世の中、メタバースをうまく活用できなければ生き残ることはできないのも事実でしょう。メタバースでできること、できないことを見極め、メリットを最大限に生かす使い方を模索しています」

また同社では、最新のテクノロジーとクライアントを「つなぐ」、架け橋としての役割も果たしていきたいと光畑氏は語る。

「最新のテクノロジーやサービスは、私自身も含めた『一般人』が理解して使いこなすには、ハードルが高い部分があります。こうしたテクノロジーを私たちも日々勉強し、試行錯誤しながら、『翻訳』するような形でクライアントに届けていきたいですね。今後も、さまざまな未知のテクノロジーが生まれていくはずですが、それらと私たちの強みをうまく融合させながら、『幸せを届ける』イベントプロデュースに生かしていきます」

ハイブリッド型イベントスペース GMO GLOBAL STUDIO がオープン

グローバルプロデュースは、GMOグローバルスタジオ、GMOインターネットグループと提携し、リアルとオンラインでのハイブリッドイベントスペース「GMO GLOBAL STUDIO」を開設した。「GMOインターネットTOWER」の最上階に設置されたスタジオには、3DCGやVEX、XR、クレーンカメラなどの国内最先端設備がそろうほか、専門クリエイティブチームを配備。企業や個人が開催する各種イベントにおいて、コンセプト設計から空間演出デザイン、当日のオペレーションまでを丁寧にサポートする。